

令和5年9月19日亀岡市教育委員会会議録

- 1 開会 午後2時02分
閉会 午後3時40分

2 出席委員

神 先 宏 彰 教育長
北 村 真 也 教育長職務代理者
末 永 礼 子 委 員
出 藏 裕 子 委 員
秋 山 伸 夫 委 員
松 浦 千 弘 委 員

3 欠席委員

なし

4 出席事務局職員

森 岡 浩 之 教育部長
川 口 雅 彦 次長兼総括指導主事
阿比留 綾 教育総務課長
今 西 恵 一 学校教育課長
樋 口 竜 次 社会教育課長
宮 本 かおり 社会教育課人権教育担当課長
岡 田 康 宏 歴史文化財課長兼文化資料館長
岩 崎 盛 雄 学校給食センター所長
小 川 博 久 図書館長
谷 口 正 二 みらい教育リサーチセンター所長
榎 本 祐 輔 教育総務課総務係長

5 傍聴者

なし

6 議事の概要

(1) 開会

○教育長が開会を宣言。

(2) 前回会議録の承認

令和5年8月22日に開催した定例会の会議録を確認し、承認した。

(3) 教育長からの報告

○教育長から以下の報告があった。

◎亀岡市関係

- ・ 校園長会議を開催し、2学期に向け取組を加速化させること、学力調査結果を受けてのこと、長時間勤務の改善を含め、働き方改革のことについて、指示を行った。
- ・ 中部たいしん2023年「ラスト・サマーフェスティバル」が亀岡小学校を会場に開催され、来賓として出席した。
- ・ 令和5年度亀岡市・スティルウォーター市スタジアブロードプログラム研修会として、第1回目が開催された。各中学校・義務教育学校の参加者7名も出席し、事前準備に向けた取組がスタートした。
- ・ 姉妹都市であるジャンヂーラ市からサトウ市長はじめとする訪問団の歓迎レセプションが行われ、出席した。
- ・ 市議会定例会9月議会再開した。
- ・ 大成中学校吹奏楽部が関西大会(小編成の部)へ2年連続出場し、今回金賞を受賞したことの報告があった。
- ・ 千代川小学校が自転車大会の全国大会へ出場し、10位入賞を果たしたことの報告があった。
- ・ 詳徳中学校の1年生の生徒が第46回全国JOCジュニアオリンピック夏季水泳大会に出場し、100m背泳ぎにおいて全国2位、50m背泳ぎにおいて全国6位となったことの報告があった。
- ・ 市議会定例会9月議会一般質問が行われ、教育部には9人23項目、多岐にわたる質問を受け、答弁した。
- ・ 令和5年度亀岡市戦没者追悼式が約100人の参列者のなかで挙行された。
- ・ 詳徳中学校の生徒が陸上競技において10月に開催されるジュニアオリンピックに出場することの報告があった。
- ・ 亀岡市美術展表彰式が開催され、教育長賞の賞状を交付した。

◎国・府等の関係

- ・ 令和5年8月管内教育長会議及び府教育委員会幹部との懇談会が開催された。
- ・ 令和5年度京都府総合防災訓練が保津橋桂川左岸河川敷周辺を主会場とし、開催された。

(4) 議 事

議案番号	件 名
第 8 号 議 案	亀岡市立小学校・中学校及び義務教育学校児童生徒の就学に関する事務処理規程の一部を改正する告示について

○第8号議案について学校教育課長が議案説明を行った。

第8号議案の規程の一部改正についての主な趣旨については、令和6年4月の育親学園開校にあわせた地域と連携し、幼児期を含めた12年間の学びを保障することや、一貫した教育の推進を図るため、西部地域にある本梅こども園、森の自然こども園東本梅に入園している子どもたちが、育親学園校区以外から通園している場合においても、市内在住者であれば育親学園に就学することができる規程に改正するものである。更にこれまで、指定学校の変更について、一部内規にて運用していた事項を、他市の状況も鑑み、改めて規程に明記したものである。

第8議案について、原案どおり承認した。

(5) 報告事項

- ①市町村教育長・教育委員研究協議会について
- ②第2回亀岡市学校給食検討懇話会の開催状況について
- ③かめおか児童クラブ夏季休業期間の開設状況について
- ④亀岡市立図書館中央館リニューアル工事について
- ⑤令和5年度11月教職員研修講座について
- ⑥サイエンスフレンズ天体観望会について
- ⑦サイエンスフェスタ2023について

○各課長等からの報告を受けて、委員から次の質問・意見があった。

<市町村教育長・教育委員研究協議会について>

阿比留教育総務課長 9月7日にオンライン開催された研究協議会へ北村教育長職務代理者、末永委員、秋山委員にご参加いただいた。他の委員への情報共有のため、当日の様子等、お話をいただきたい。

北村教育長職務代理者 2つの分科会に参加をさせていただいた。この研修に関しては、これまでに自身が訪れたことがないような自治体の教育委員と意見交換ができる貴重な場であると思っている。印象に残ったこととしては、不登校対策に係ることである。なかなかどの自治体も成果が出せていない現状にあるなか、ファシリテーターをさせていただいた自治体であったが、不登校者数を減らしているということであった。対策としては、子どもたちの居場所づくりであった。学校にこだわらない、そんな取組が確実に成果として出ているということであった。

もう1つは、部活動に係ることであるが、各自治体とも

苦慮していることがうかがえた。そんななかで、ある自治体がタブレットを使用し、子どもたちに何度かアンケート調査を実施しているということであった。大人の都合で部活動をどうするという議論になるが、部活動を実際するのは子どもたちであり、子どもたち自身がどうしたいのかタブレットで自由に意見をいう、その視点はやはり大事だと感じた。また、他の自治体では地域移行を進めるなかで、地域のスポーツクラブが取り組んでいた「アルティメット」というスポーツが部活動になったという話もあった。新たな部活動のかたちであると思った。

末 永 委 員

私も2つの分科会に参加したが、まず、いじめ、不登校対策に係ることで、茨城県東海村では、校内でオンライン相談窓口を開設しており、相談者は、名乗ってもいいし、名乗らなくてもよい。担任でもいいし、そうでなくてもよい、相談したい人を自らが選んでよいとしているということで、興味深い取組の紹介があった。また、大阪府泉佐野市は、過去にいじめによる自殺の事象があり、たいへん重く受け止めているなかで、市として「泉佐野市いじめの防止等に関する条例」を制定しているということであった。私からは、京都府はいじめに係る認知件数が非常に多くなっている。これは、子どもたち自身が、いじめと感じたらいじめの件数として認知される仕組みになっていて、逆にそれが未然防止に繋がっていることをお話した。不登校に関しては、その人数がどの自治体も増加しており、特に新型コロナウイルス感染拡大を受け、顕著に数字として反映されているということであった。本市の不登校対策のひとつとして、フリースクールに通う児童生徒に対して、授業料の一部を補助金として交付しているというお話をさせていただいたところ、みなさん関心を持たれていた。他にも、不登校の子どもたちがいる家庭同士を繋ぐ会を立ち上げている自治体もあった。

地域と学校、協働連携に係る分科会では、「学校だより」をともに作成していて、たいへん好評であるといった話であったり、広島県府中町では、学校に関連するたくさんのボランティアグループがあり、そのグループが日常から学校に出入りし、まさしく地域に学校を開放している事例紹介があった。

秋 山 委 員

私は、教職員の働き方改革と部活動に係る分科会に参加をさせていただいた。まず、教職員の働き方改革については、どの自治体も取り組みは進めてはいるものの、ど

の自治体も苦慮し、抜本的な解決に至っていないという現状であった。事務の電子化、部活動の在り方等、この辺りの話が多かった。また、昨今、教職員へのなり手が無いということも大きな問題であるとのことで厳しい状況を再認識した。

部活動に関しては、北村教育長職務代理者からもあったが、私が参加したグループにも子どもの声を聞くということがあったが、同様に大事な視点だと感じた。意見交換のなかには、過疎化が進んでいるところ、また一方で人口が増加しているところ、両極端のところがあり、いずれも部活動の地域移行にはかなり難しさがあるということであった。先進的な市町村のなかには、3年ぐらい前からの取り組みのようであるが、予算を3,000万円程確保し、地域移行を行っているということであった。自治体でばらつきがあるということを改めて感じた。

<第2回亀岡市学校給食検討懇話会の開催状況について>

出 蔵 委 員 現在、子どもたちと保護者向けにアンケート調査を実施されている。また、その結果についても注視したいと思っている。日頃、学校給食には我が子がお世話になっているが、栄養バランスもよく、丁寧に給食を提供いただいている感謝している。中学校給食となると、子どもたちの体づくりにも大きく影響してくると思う。その部分もしっかり検討していきたいと考えている。食育に関しても進めていかなければならないが、偏食、好き嫌いについても一定対応が必要かと思う。考えなければならないことは、非常に多いが保護者間では、令和10年にスタートすることを心待ちにされているようである。一方で子どもたちは、自宅から持って行く弁当がよいとの話もあるが、子どもたちにとってもよりよい形の学校給食であるべきと考える。

秋 山 委 員 資料の中のアンケート調査結果をたいへん興味深く見せていただいた。保護者と教職員で真逆とのことであり、負担の押し付け合いのようにも感じられる。学校給食を行うと、実際に教職員の負担は増えるのか。

今西学校教育課長 懇話会のなかでも委員から同様に質問があったが、中学校給食実施に関しては、本市が先行的な取り組みではなく、既に中学校給食を実施している自治体もあるため、参考にすることができると考えている。教職員の負担に関して、給食についての指導等、一定必要な部分はある

が、配膳の仕方等他市の事例も踏まえ、負担軽減について対応策もあると考えている。

北村教育長職務代理者 令和10年度を目処に中学校給食をスタートさせるという前提条件のなか、懇話会の提言を行う時間軸的なところを確認しておきたい。

今西学校教育課長 懇話会の委員からいただく提言については、今年度の12月末、年内と考えている。

北村教育長職務代理者 育親学園は自校式給食を行っていく計画になっているかと思うが、そのことだけに限らず、教育委員会に関連するものだけでもかなり多くの事業を計画されており、建設費用が嵩むことが想定される。財政的には大丈夫なものであるのか。

森岡教育部長 財源については、際限なくという状況ではないということは、先ずもってお伝えしておきたい。しかしながら、市は借金である起債をすることで事業を進めることができる。また、起債も優良起債といわれ、後に国から補填されるようなものを活用することを考えていく。一概に事業費が大きいからといって難しいというものではなく、歳入ベースも踏まえての計画が重要と考える。

松浦委員 学校給食を進めるなかで、たいへん大きな役割を示すことになるのが、食育であると考えている。学校給食では、管理栄養士がいて栄養バランス、嗜好、体づくり、あらゆる視点から考え、提供していくことになる。全国的には、バイキング方式を取り入れられている学校もある。食育に重点をあて、アレルギー対応等の問題も含め、考えていかなければならないと考える。

(6)閉会

○教育長が閉会を宣言

以 上

○教育長職務代理者

○委 員

○委 員

○委 員

○委 員

○教 育 長

(調整者 教育総務課長)